



“Slow and steady wins the race.”

上の格言を何回か見聞きしたことがあるでしょう。「急がば回れ」というふうに訳されることも多いですが、英語そのものの表現は、「ゆっくりしていても着実に走る(歩む)者が最後には競走に勝つ」という意味です。これですぐに思い浮かべるのは、イソップ寓話に出てくる「ウサギとカメ」の話ですね。足に自信のあるウサギさんは途中で一眠りして、遅いながらも一歩一歩確実に歩を進めたカメさんに負けてしまうというあの話です。「油断大敵」ということでしょう。

さて、1年生の皆さんが入学して早10ヶ月、あと2ヶ月もすると2年生になります。どういう先輩として新1年生を迎えますか。後輩の手本となれるような先輩であってほしいと思います。そのために、昨年4月からの自分の歩みを振り返り、自己チェックをしてもらいたいと考えています。例えば、①学力は伸びているか。(定期テスト・実力養成考査・進研総合学力テスト等の結果) ②挨拶、返事、言葉遣いはきちんとできているか。③体力や精神力が向上し粘り強く物事に取り組めるようになってきているか。④アグレッシブやノンアサーティブではなくアサーティブな自己主張ができるようになってきているか等々。他人と比較するのももちろん大切ですが、4月・5月の自分とまず比較して自己評価をしてください。

「ウサギとカメ」の話ではありませんが、かなり良い素質を持って入学してきたのに油断をして努力を怠り、中学時の貯金を使い果たして右往左往している人はいませんか。もったいないですね。反対に、毎日こつこつと努力を積み重ね着実に実力を伸ばしてきている人もいます。要は「やる気」「集中力」「持続力」だと思います。もちろん、十分な自宅学習時間の確保も、実力を伸ばすのに必要な条件です。授業を受けっぱなしで復習を怠っている人は既習事項の定着度が低いのではないのでしょうか。

高校での学習事項をしっかり定着させるには1日3時間の自宅学習が必要となります。(20年前は1日4時間と書いていましたが…)。部活動を一生懸命にやって帰宅するのが遅くなる人は大変ですが、平日2時間の勉強で終わってしまうと、例えば、土曜日に5時間、日曜日に6時間くらいの自宅学習が求められることとなりますね。授業中の集中力で、ある程度カバーできるにしてもやはり学習量・練習量を確保することは重要です。

話は変わりますが、松平康隆氏を知っていますか。皆さんは若いので知らないかもしれませんが、1972年のミュンヘンオリンピックのバレーボールの全日本代表監督です。ちょうど私は大学1年生で、友人のテレビの前にかじりついて応援をしていました。順調に勝ち進んで準決勝、相手はブルガリア。2セットを先取され3セット目もたぶん0-4。そこから南選手達の活躍で大逆転。決勝でも東ドイツを破り金メダルを獲得しました。その松平監督が昨年未亡くなりました。最後に、その松平監督の言葉を記します。スポーツばかりではなく、様々なことに当てはまる含蓄のある言葉だと思います。

1年2組担任 S

『諦めるな。怯むな。悔るな』

週行事予定表 (2/4~2/19)

※2/4(土)までに私物をすべて持ち帰ること

月	日	曜	行事予定	課外	
2	4	土	土曜講座(第2週時間割)		8:10着席
	5	日	宮崎東高スクーリング(テスト)		
	6	月	推薦入学者検査場作成(午前中授業)	A	7:25着席
	7	火	推薦入学者選抜検査(自宅学習日)	×	
	8	水		A	7:25着席
	9	木		A	7:25着席
	10	金	センター早期対策マーク模試(2年)	A	7:25着席
	11	土	建国記念の日、センター早期対策マーク模試(2年)		
	12	日	宮崎東高スクーリング(テスト)		
	13	月		B	7:25着席
	14	火	職員会議、第3回清掃強化週間・第3回家庭学習強化週間(~2/20)	B	7:25着席
	15	水		B	7:25着席
	16	木		B	7:25着席
	17	金	服装容儀指導	B	7:25着席
	18	土	土曜講座(第4週時間割)		8:10着席
	19	日			

※ 2/1(水)に国公立大一般入試(前・後期)の出願が締め切られました。地元の大学の志願状況を裏面に載せてあります。難易度は倍率だけではありませんが、少しでも意識を高めてほしいと思います。参考にしてください。

※ 1日午後3時現在の集計ですので、最終的な志願者数・倍率はこれより上がる可能性もあります。

現時点で、全国の国公立大学募集定員約10万人に対し、4.8万人が出願しており、平均倍率は4.8倍です。
(4.8人に1人しか合格できないということです。)

後期は募集定員が前期に比べ少ないので、倍率がかなり高いことが分かります。ただし、前・後期は同時出願で、後期を受けるためには、前期が不合格か、合格でも前期の入学手続きを辞退することが必要になります。したがって、前期で合格の者は後期は欠席するのが普通ですので、後期の実際の倍率は当初よりも下がるのが一般的です。(それでも前期に比べ後期は圧倒的に高倍率です。)

前年度と倍率があまり変わらないところもありますが、1年おきに低倍率と高倍率が繰り返される、いわゆる隔年現象となっているところが多いのも特徴です。(この表からは分かりませんが、一昨年やさらにその前の倍率とも比較してみるといいでしょう。)

他の大学は2/2(木)付の新聞に掲載されていますので、見てみてください。